

第 423 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

※本研究会は医学系研究科 博士課程の単位認定セミナーです

日時：2026（令和 8）年 11 月 9 日（月）18：00～

場所：Web 開催のみ

※Web による参加方法は別紙をご確認ください

「臨床栄養の進歩とリスクマネジメント」

演者：滋慶医療科学大学大学院 特任教授 和佐 勝史 先生

抄録

本講演の前半では、大阪大学が中心静脈栄養法（TPN）の開発・進歩にどのように貢献したかを概説し、後半では栄養管理に関連して発生する医療事故への対応について最近の考え方を紹介します。

1966 年、ペンシルベニア大学の Stanley J. Dudrick らはビーグル犬を用いて、「TPN により適切な栄養素を供給すれば、成長・生命維持が可能である」ことを実験的に証明しました。1968 年には短腸症候群の乳児に TPN を導入し、ヒトを長期間栄養管理できることを報告しました。Dudrick 博士の臨床例の報告から 3 年後の 1971 年、大阪大学の岡田正名誉教授らが我が国で最初に TPN を導入し、その翌年（1972 年）には栄養サポートチーム（NST）を、1979 年には在宅静脈栄養法（HPN）を導入し、大阪大学はわが国の静脈栄養管理のパイオニアとなりました。それ以降、岡田先生を中心とした小児外科・第一外科チームが、様々な TPN 用製剤（微量元素製剤、アミノ酸製剤、ビタミン製剤）を開発し、NST による附属病院内の栄養管理のシステム化を確立しました。

栄養管理では、「患者の状態・栄養指示・投与内容などの確認不足」や「多職種間の情報共有不足」が重大な事故につながります。医療事故が発生した場合、「誰のミスだったのか」だけを追及するのではなく、「なぜ、そのミスが起こり、事故を防げなかったのか」を分析することが重要です。言い換えれば、医療事故での原因分析では、個人の行為とそれを取り巻く医療システムの両方から考えることが重要です。これまでの安全管理は、医療事故の「失敗」に着目し、「失敗をなくす」ために原因を特定し、事故の再発を防止する方策を検討してきました（Safety-I）。これとは逆に、物事がうまく行われている事例（成功事例）に着目し、うまくいっている理由を分析することで、日常の医療活動を望ましい結果に到達させるアプローチが注目されています（Safety-II）。

以上の「医療安全へのアプローチ」について、具体例を挙げて解説したいと思います。

※大阪大学医学部附属病院 小児外科

世話人：小児外科 中島 賢吾 nakahata@ped surg.med.osaka-u.ac.jp

次回第 424 回 CNC は小児科 木村武司先生のお世話で 2027(令和 9)年 2 月 8 日(月)18:00~開催予定です。

オンラインによる参加方法について(今回はオンライン開催のみ)

参加ご希望の方は下記 **URL 又は QR コードよりマイクロソフトフォームズにアクセス**していただき、参加登録をお願いいたします。

後日、事務局より入力いただいたメールアドレスに参加方法についてのご案内をお送りいたします。

※直接事務局にメールをいただいても参加登録にはなりません。

マイクロソフトフォームズへのご入力にご協力をお願いいたします。

● 申し込み先：

<https://forms.cloud.microsoft/r/Br3ZnbpiYx?origin=lprLink>



● 申込締切：2026（令和 8）年 1 1 月 5 日（木）23：00 まで

※学生の方へ

オンラインで実施する研究会における出席票の司会者確認印は指導教員印で良いものとされています。

問い合わせ先：大阪大学臨床栄養研究会（CNC）事務局
内分泌・代謝内科学 企画室内
TEL：06-6879-3732 FAX：06-6879-3739
jimu@endmet.med.osaka-u.ac.jp